

研究便り

札幌市立かっこう幼稚園・認定こども園にじいろ 合同号 令和7年3月14日発行

～豊平区・清田区研究実践園 合同研究事業～

研究主題 『質の高い幼児教育の実現に向けて
～つながら ひろがる 札幌市の幼児教育』（研究実践園全市共通）

研究副主題 『多様な教育・保育環境における幼児期にふさわしい生活のために』
(豊平区・清田区共通)

研究の重点 『心を動かし、思いをもって遊び込む幼児を育むための
保育者の援助・環境の構成について探る』
(豊平区・清田区共通)

札幌市立かっこう幼稚園（豊平区）・認定こども園にじいろ（清田区）では、副主題である“多様な教育・保育環境”を通常の教育時間だけではなく、預かり保育や保育園児の長時間保育を含めた園生活とおさえ、研究アドバイザーの木村彰子先生（国際大学教授）の御助言をいただきながら研究（3年計画）を進めてきました。その中で、“遊び込める子どもを育みたい”という願いのもと上記の重点を設定し、話し合いを深めてきました。実践研究を通して分かったことをお知らせいたします。

豊平区の紹介



♡ハートフル・とよひろ



札幌市立かっこう幼稚園では、昨年度までの研究より、「預かり保育士との連携を深め、子どもの思いや経験をつないでいくこと」の大切さが見えてきました。そこで今年度は、長時間保育を利用する子どもたちに焦点をあてながら、研究の重点にせまるべく実践事例やエピソード形式で話し合いを深めてきました。今年度の研究の成果は以下の通りです。

～今年度の研究から見えてきたこと・成果～

① 子どもたちに見られる変化・育ちは？

◎（預かり保育でも）「またできる!」「もっとやりたい!」「今度はこうしたい!」という意欲が高まり、思いをもって遊び込む幼児が増えた。



◎預かり保育を利用する子どもたちの“遊び込む姿”がモデルとなって、いろいろな幼児に遊びが広がった。

◎異年齢の関わりが増え、教え合ったり、「すごいね」と友達のよさを認めたりするようになった。

◎「自分でできた!」という実感や認められる経験が自信や自己肯定感upにつながった。

② 保育者に見られる変化・学びは？



○ 預かり保育士との情報共有の質が深まった。

→体調や遊びだけではなく、「今何を大事にしたいのか」というねらいや環境の出し方などを共有

○ 教育時間を楽しんでいる遊びを預かり保育でも再現したり、預かり保育利用児の経験を教育時間の遊びに生かしたりする環境・保育者の関わりが大切。

○ 異年齢で関わりがもてる場と各学年の子ども同士でじっくり取り組める場の両面を大切する。

○ 家庭で楽しんでいることを園の遊びに取り入れたり、家でも引き続き取り組めるようにしたりする（情報発信など）ことで、幼児の意欲や自信につながるが見えてきた。



《次年度に向けて》

- ＊担任間及び預かり保育士との継続的でタイムリーな連携を構築していく。
- ＊子どもの思い・経験をつなぎ、育ちを共有する家庭との連携について探る。

☆ 『3年間の研究のまとめ』については、後日“成果集”(豊平区版)として発行する予定です。

清田区の紹介



札幌市立認定こども園にじいろ（清田区）では、子どもたちの遊びの始まりや興味に注目し、研究を進めてきました。またその中で、昨年度までの研究で、「長時間、園で生活する上で、物的・人的環境どちらにおいても安心感をもてること」の大切さが見えてきました。今年度は、研究の重点である「遊び込む幼児」に迫るべく、保育者の援助や環境構成について遊びの事例検討を重ねてきました。今年度の研究の成果は以下の通りです。

～今年度の研究から見えてきたこと・成果～

①

幼児の姿
◆遊びへの思い
◆安定した生活



先生、〇〇を使って△△をつくりたいな。



ここは何を使ってつくるのかな？



うーん、□□したときに使ったあれを使ってみたいな。

子どもたちから「〇〇したい」などやってみたいことを保育者に発信することが増えました。また、それを聞いて他児も興味を示し、関わろうとする様子も見られました。保育者が子どものイメージを引き出せるよう、「ここはどうする？」「どうしたらいいかな？」など対話をするを大切にしていきました。イメージが形になる経験を積み重ねることで自信がつき、保育者だけでなく、友達とも言葉でやりとりする様子がみられるようになってきました。

②

保育者の援助・
環境の構成

保育者同士の
連携



あの材料を使ってこんな風にあ
そびたいな。



いいね。どうしたらもっとよくなるか
な？こんなやり方もいいかもね。

“保育の柔軟性”を保育者がもつことで子どもの遊びが発展し、遊び込む姿につながっていき
ました。時間や場所の使い方などの環境構成や保育者の考え方、発想の転換など様々な点で
柔軟に物事を考えていくことが大切であると考えます。

場の使い方や子どもの遊びの様子をノートや打ち合わせなどで意識的に共有していくことで
どの保育者も同じように子どもに関わり、安心して遊び込む姿もみられました。

③

家庭とのつながり



先生！家から箱もってきたんだ。これ
で何かつくりたいな。



これでどんなものをつくるのかな？



(園での様子を聞いて) 家でも園の
遊びを真似て楽しんでいます。

研究トピックの配信や懇談などで
遊び込んでいる姿を共有してい
きました。家庭でやったことを保育者
に伝え、園の遊びに取り入れようと
したり、園でやったことを家庭の遊
びに取り入れられていることに気
付けました。

遊びの思いが継続していくため
には、家庭との連携も必要であると
考えます。

3年間の研究を振り返って

2区合同で研究を進めてきたことで、子どもの思いや保育者の援助についての方・考え方が広がったり
深まったりすることができました。“幼稚園”“子ども園”と施設形態に違いはありますが、“遊び込む”こ
とで様々な子どもの育ちや学びにつながっていくことが共通して見えてきました。また、長時間保育の研究
を通して見えてきた“遊びへの思いや経験をつないでいくこと”“一人一人の生活リズムを大切にすること”
“保育者同士・家庭と情報を共有して連携を図ること”を今後も大事にしながら、一日を通した園生活がよ
り豊かになっていくように努めていきたいと思ひます。



令和7年4月から市立幼稚園は**5園体制**となります



今後も変わらず…

▶**幼児教育の考え方を共有**

→研究実践園である核となる5園と認定こども園にじいろが図の色分けしているペア区へ実践研究で分かったことを発信・共有します。

▶**公開保育を活用した研修**

→幼児教育施設と小学校が共に学べる機会をつくります。(実践発表会 等)

▶**訪問研修**

→核となる5園がペア区の申込や園・校内研修に関わる相談に対応します。

幼児教育センターHP URL

<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/youjikyoku/yousenn/kennkyuu.html>

二次元コード→



●●研究のまとめパンフレットを作成しました●●

研究実践園が3カ年計画で取り組んできた保育実践研究のまとめの年となりました。この研究に取り組んだ10園の保育実践を紹介するパンフレット『つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～市立幼稚園・認定こども園が取り組んだ5つの保育実践研究～』を作成しました。市内幼児教育施設や小学校に3月末に送付いたします園・校内研修などにご活用いただけると幸いです。

また、実践研究の詳細や成果等は各園のHPで発信していますので、ぜひご覧ください。

【研究副主題テーマ】

豊平区・清田区
多様な教育・保育環境
(長時間保育の実践)

白石区・厚別区
遊びを通した
幼児期の学び

北区・東区
幼保小連携・接続

西区・手稲区
特別支援教育

中央区・南区
家庭教育支援

●研究のまとめパンフレット

